

# JAAC だより

## 特別レポート：“震災被災地、岩手県釜石市を訪ねて”（最終回）

### — 復興への道のり —

7月5日、6日の2日間に渡って、釜石市出身の友人K氏と東日本大震災の被災地の一つである岩手県釜石市を実際に訪ねてまいりました。今月号では前回までのレポートの最終回として、被災地の復興への取り組みとその難しさをご報告してまいりたいと思います。

7月6日午後、K氏と私は大槌町を後にして、釜石市に戻った。今朝、大槌町に来た道に戻る途中、『またあそこで誰か見つかったのかな・・・？』と独り言のようにささやくK氏が見ている先に目を移すと、数人の人たちが輪を作って合掌しながら頭を垂れている姿が目に入ってきた。残された家族だろうか、それとも亡くなられた方の知人たちであろうか、簡易的に片付けられた瓦礫の上に花束が二つ手向けられていた。その光景を目にして、自然と私も手と手を合わせていた。『まだまだ、何もかも終わっちゃいないっ！』という想いが私の心を駆け抜けた。

釜石市内に戻った私たちは、津波の被害から免れた大きな土産物物産センターで遅い昼食を取ることにした。土産物センターの中には観光客の姿はほとんど目にしないが、少ない品数にもかかわらず威勢の良い掛け声を出して、一所懸命にお客を呼び込む売り子さんたちの姿が印象的である。まばらな買い物客を相手にしながら、精一杯の笑顔で対応している店員さんたちの姿に、復興への意気込みを感じる。私たちは仮店舗として営業している寿司と海鮮丼の店に入り、少しでも地元の復旧と復興の役に立てればと思い、一番高い海鮮丼を注文した。まだまだ魚は多く獲れないが、地元の漁師さんたちが頑張っているようだ。周りの壁面には、一目でそれと分かる幾枚もの応援メッセージが貼り出されている。日本各地のみならず、釜石市と縁のある諸外国から送られたものであろう様々な趣向を凝らした応援メッセージや写真が所狭しと壁面を飾っている。しばらくの間、無言でそれらに目を凝らしていた。ここ釜石でも、多くの国や地域の人々から支えられている。彼等からの復興の願いが伝わってくる。そんな想いを馳せながら、海鮮丼を食べ終えた。

この土産物センターの2階は釜石市役所の一部の部署が入っている。K氏が面識のある災害対策本部の担当者を訪ね、近況を尋ねた。ここでも、大槌町役場の職員の方が言われていたこととほぼ同じように、思うように進まない復旧作業や国側との折衝の難しさに悩まれている。地元出身のK氏と熱心に復興策について話された後、同市の産業振興部を訪ねてみるように勧められ、私たちは災害対策本部を後にした。私たちは避難所の一つとなっている市内の体育館に近接している産業振興部に行ってみた。そこで、産業振興部商工労政課の方とお会いして、復興のために何かできることを尋ねてみた。同課の職員の方は多忙にもかかわらず、私たちと約1時間に渡って様々な復興策についての話し合いの場を作ってくれた。地元復興のために何かできることをやろうとしているK氏と彼の同志たちは、地元の漁師さんたちを中心として漁業の復興を応援したいという旨を伝えた。地元の漁師さんたちを支援するのであれば、小さくても漁船を用意すれば良いのだが、獲った魚を持ってくる漁港の整備が追いついていないというジレンマを抱えているようだ。また、一つの例として、漁業の復興には欠かせない加工工場の新設をめぐる、新たに設けられた建設規制等によって元の場所に加工工場を立てられないという難問が持ち上がっていると言う。そのために、新たな土地を探し、そこを整備した上でないと加工工場は建てられないのである。地元の漁師さんたちは、仮設の加工工場でも良いと言っているのに、行政がそれを許さないのであるから、復興への一歩を踏み出そうにも容易に踏み出すことが叶わない実情に直面している。明日、一ヵ月後、三ヵ月後というごく近い将来における漁業復活を望んでいる漁師の人たちに対して、10年、20年、50年先でも機能している漁港とその関連施設のあり方を模索している国側と地方行政との間に深い溝が明らかに存在している。双方の立場からすれば、それぞれの言い分はしごく尤もな話である。まるで“スクラップ・アンド・ビルド”策とも言うべき、全てが壊され無くなった跡地に全く新たな物を作っていく復興策であるが故に、長期的なビジョンによって復興港湾地域構想が練られていると思われる。その構想が固まるまでには膨大な時間を費やすことは誰の目にも明らかかなはずだ。それでは、それまでの間、どうやって漁師の方々は生活していけば良いのだろうか。漁師の方々に限らず、他の業種に従事している方々も同様なのだろうか。被災地は今、自分たちの町を単に元通りにするのではなく、新たな町創り策に取り組んでいる。これから被災地の人々は、長く、難しい復興への道のりを歩んでいかねばならない。そのことが分かった今、私たちには何ができるのだろうか。そして、何をすべきなのか。(完)

(カリフォルニア事務局： 照井)

— 2011年9月11日という日 —

2011年9月11日。この日は、2001年9月11日にニューヨークの世界貿易センタービルで起きた「9.11NYテロ事件」からちょうど10年を迎える日です。そして、今年の3月11日に日本の東北地方を襲った東日本大震災からちょうど半年が経った日です。偶然にも日本の被災した各地と、ニューヨークのグラウンド・ゼロと呼ばれる世界貿易センタービルの跡地で尊い命を落とした犠牲者の方々への鎮魂の式典が行われました。「9.11NYテロ事件」では日本人24名を含む2,977人が犠牲となりました。また、東日本大震災では死者・行方不明者合わせて約20,000人の方々が犠牲となり、今なお約1,000名のご遺体の身元が確認されず、それぞれのご家族の元に帰ることが叶っておりません。さらには、約83,000人の方々が今なお避難所での生活を送られています。それぞれの事件と震災で犠牲になられた方々のご家族の思いは、容易に想像できるものではありません。「9.11NYテロ事件」から10年の歳月が流れ、ややもすると私たちの記憶から薄れ始めている気さえます。東日本大震災が起きた3月11日からは6ヶ月が過ぎ、被災地から遠く離れた土地に暮らす人々にとっては確実に過去の出来事のように感じ始めているのではないのでしょうか。そして今、日本の多くの人々は東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故の影響による放射能汚染に不安を感じています。次から次へと出てくる放射能汚染問題や様々な社会不安などに関心が奪われるなか、私たちの記憶にしっかりと留めておかななくてはならないことのひとつが、「9.11」であり、「3.11」ではないのでしょうか。「9.11NYテロ事件」では、あまりの事態の大きさに、そこに我々の同胞がいたことをいつしか忘れがちになっていたような気がします。「3.11」の先の大震災においても、その後も続く余震には気が取られますが、日に日に変わる行方不明者と身元不明者の方々の数字までにはなかなか気が回らないものです。その他にも、台風や様々な事故などで多くの尊い命が犠牲になっています。日々の生活のなかで、ほんの少しの間でも、犠牲となった方々のことを思う時間を持ってみませんか。犠牲となった方々のご冥福をお祈りいたします。

“大学院進学”という進路の選択

今年の夏休みに一時帰省して、日本で就職活動をしていたJACC生も多くいることと思います。8月末の統計では、2012年卒業予定者の中で内々定を取得している学生は全体の約58%から60%とされています。そのなかでも、理科系男子の内々定率は約70%弱と見られ、最も高いものとなっています。夏休みも終わり、2012年卒業予定者の中には就職か大学院進学かの選択に悩む学生も多く見られるようです。

以前にも本誌で述べましたが、海外大学卒業者が日本で就職する際、企業の採用担当者が最も感心を持つのは何を専攻したかではなく、コミュニケーション能力やバイタリティー、語学力といったものです。つまり、大学で何を専攻しようかと、一般的にはジェネラリストとして採用する傾向が強いものです。しかしながら、今後の企業のあり方や社会の変化を鑑みると、何らかの専門分野に長けた者の採用も増えていくと思われます。就職内定率が低い昨今、大学院への進学を選択する学生が増えています。確かに、4年制大学卒業よりも大学院修士課程修了の方が内定率は高いという実績もあります。したがって、大学院進学は就職内定を取り付ける有効な手段と言えるかもしれません。しかし、ここでお話ししたいのは就職のための大学院進学という選択ではなく、10年後、20年後の皆さんにとって、その時代に求められる人材としてより活躍されることを考える時、それまでに大学院での課程を修めておくことが得策ではないか、ということです。今後の社会の変化を見ていくと、より専門的な知識や資格を有する人材が必要とされる時代の到来が予想されます。大学卒業後に専門学校に入りなおして専門的な資格を取得してから就職をする学生の割合が近年増えてきていることにも着目するべきではないのでしょうか。専門的な資格やスキルを得るのであれば、専門学校へ入りなおすことも一つの手です。しかし、専門的な知識を学位として得るのであれば、大学院への進学しかありません。皆さんの中には色々悩まれている方が多いと思いますが、もう一度、20年後の自分の姿を想像してみたいか、そして、自分は何をしたいのかを改めて考えてみてください。

【編集後記】日本のサッカー界の活躍は目覚ましいものがある。サムライ・ジャパンもなでしこジャパンもオリンピック出場に向けて頑張っている。ニッポン、チャチャチャ！◆円高傾向が長期間に渡って続いている。もはや海外旅行や留学にはラッキーだ、などとは言っていないのでは■食物や食肉への放射能汚染問題や震災復興策による不安と不満が広がっている。新しくなった政府の手腕に期待したい。外交や国防、増税問題についてももしっかり頼むよ。(照井)

Let me remind you . . .

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください。

◆就職活動をするJAAC生の皆さんへ：今年の秋にロサンゼルスとボストンでキャリアフォーラムが開催されます。開催予定は、ロサンゼルス(10月7日(金)、8日(土))、ボストン(11月11日(金)～13日(日))です。詳細は、<http://www.careerforum.net/event/> をご参照ください。随時、各自でインターネットや就職情報誌での検索を行ってください。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)

